



市政モニターの声から

鉢合わせ行為の発生は 7年連続

新

居浜市太鼓祭り推進委員会（事務局：新居浜市運輸観光課）では、毎年10月の新居浜太鼓祭りにおいて、事故のない楽しい秋祭りの実現に向け、各種啓発活動などを行っています。昨年市制施行80周年という節目の年であったことから、これを契機に「平和運行元年」となるよう、委員会内の平和運行検討専門部会にて方策の検討・取り組みを行いました。しかし、一部地区で太鼓台同士の鉢合わせ行為が発生し、けが人や逮捕者も出るなど大変残念な結果となり、鉢合わせ行為の発生は、これで7年連続となりました。今回は、相次ぐ鉢合わせ行為の発生に対し、昨年、市政モニターの皆さんから寄せられた声をお知らせします。

市政モニターの皆さんから 寄せられた声から

- ◎今までにさまざまな対策が講じられてきたにもかかわらず、鉢合わせがなくならないのは各運営協議会の対応が甘いと思う。次年度に絶対に出させないようにする、他の太鼓台に迷惑金を払わせる、安全運行した太鼓台にはフェアプレイ費を渡す、何か特典を与える、などいろいろ案をだして検討すべき。
- ◎過去における鉢合わせの原因を検証し、どこに要因があるのか関係者が周知してほしい。信賞必罰をより明確にする。
- ◎鉢合わせをした太鼓台へのペナルティが軽すぎる。
- ◎県外でも人気の太鼓祭り。勇壮華麗なかきくらがメインのはず。一部の心無い人たちの行動でイ

- メージを壊すのはやめてほしい。
- ◎地区太鼓台運営委員会の取り決めににより鉢合わせを禁止されているが、効力がないと感じる。警察の取り締まり（法的手段）強化が必要と思う。
- ◎自治会のかき夫不足による相互応援はよいが、外部団体の支援はコントロールできないので禁止すればよい。特に人同士の暴行や危険工具の使用は、警察が迅速かつ厳しく取り締まるとよい。
- ◎見物客の中にも鉢合わせをおおするような風潮もある。見物客の心構えも肝心と思う。
- ◎鉢合わせを見て育っている人にとっては、その時の高揚感が特別なものとして残っているのだと思うが、人命にも関わるのだと思うことを、皆が再認識すべきだと思う。
- ◎いくら指導、取り締まりを強化、ペナルティ強化などとしても鉢合わせが行われるのは、太鼓台を担ぐ一人一人の平和運行への意識が低いからだと思う。太鼓台運営委員会、各太鼓台責任者は担ぐ人の意識改革を行うべきであり、推進委員会は市民に対しても平和運行の意義を今以上に訴えていくべきだと思う。
- ◎鉢合わせを面白がる雰囲気

- ずっと続いている。その影響を子どもたちがどう受け止めていくか、深く考えてほしいと思う。子どもたちの目には、物を壊して喜ぶ大人たちの存在として映っていることを認識していただきたい。ぜひ無くしてほしいと強く希望する。
- ▼地域コミュニティの維持にも影響が出ています…
- 太鼓台同士の鉢合わせ行為が続いていることに対し、運営を担う自治会の一部関係者からは、「鉢合わせした太鼓台の修繕に掛かる負担が大きく、自治会を脱会する会員が増えていく」との声も聞かれるなど、地域コミュニティの維持にも影響が出ています。
- ▼次の世代に引き継ぐために
- お祭りの目的は、豊年の秋を神様に感謝するものです。新居浜が全国に誇る伝統文化行事である太鼓祭りの伝統を次の世代に引き継げるよう、また、豪華絢爛な太鼓台がこれからも「新居浜の誇り」であり続けられるよう、皆さんのご理解、ご協力をお願いします。
- ※写真は昨年の太鼓祭り写真コンテスト入賞作品です。